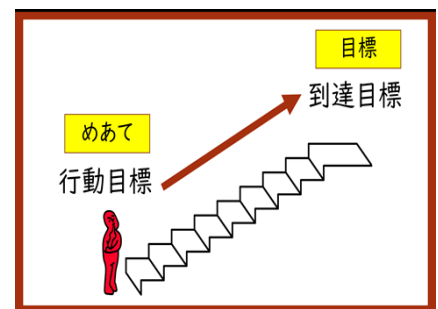




目標とめあて

子供たちは絶えず成長しようと努力します。「できるようにになりたい」「もっと上手になりたい」というように、よりよい自分になるために模索しながら生きています。もし、子供に「成長しよう」という意欲が感じられないとすれば、その子供は何かのことで勇気がくじかれ、目標を失い、無気力になっているのです。家庭や学校という集団の一員として、共同生活を送っていれば、子供は、人間関係を築き、集団に貢献しようと自律的に動き出します。言い換えれば、「人の行動には必ず目的や目標がある」ということです。

特に学校はたくさんの目標が存在します。学校教育目標、学級目標、生活目標、保健目標、食育目標……。学校では、子供たちに「成長しよう」という意欲を喚起させるために、「目標」や「めあて」をもたせる場を意図的に仕組んできたのです。これは、学校文化の中の一つとも言えます。しかし、意外と「めあて」や「目標」が混在していることが多いようです。「めあて」と「目標」との関連は、上の図のようになっています。



目標は、「ああになりたい、こういう自分になりたい」という「到達目標」、めあては、自己実現するための具体的な「行動目標」なのです。スモールステップでの「行動目標」への取組が、いずれは「到達目標」に近づいていくのです。

例えば、ある子供が1学期の目標に「算数の計算をがんばる」と書いたとします。これは「到達目標」であり、「めあて」ではありません。「毎日10問ずつ計算問題に取り組む」と具体的な行動目標にしたときに「めあて」となります。このような「到達目標」に対する「行動目標」の日々の繰り返し、子供たちの「夢実現」へ向かうエネルギーとなります。また「めあて」を立てる行為には、子供が意思決定するという、とても重要な意味があります。そこには責任が発生します。そして、めあてを常に振り返るようにすると、めあてがどんどん洗練されていき、自分に合った「めあて」を立てることができるようになってきます。例えば、「苦手な漢字を毎日30字ずつ書き取るようにする。」「夜9時半までには寝て、朝6時半には起きるようにする。」などの自分に合った「めあて」を立てることができるようになります。そうすることで、自分の生活を見つめ、それを改善しようとする力が備わってきます。

家庭の中でも「目標」や「めあて」について、考えていただけると大変ありがたいです。家庭の中でも自分の「目標」や「めあて」を大切にしていくと自ら動ける子供になります。そして子供たちのめあてに対する行動を認めることで、子供たちはさらに自律的に行動しようとしています。しかも、子供のときに獲得されるこの自律的な行動は、生涯にわたって維持される傾向にあるのです。

※ これは、教職員向けに作成した動画ですが参考になるとと思います。QRコードを読み取るか、下のURLをクリックするかタップしてご視聴ください

<https://www.youtube.com/watch?v=uHbjKPu82t4>



参考動画 